奇術師が幻想入り

衛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
奇術師が幻想入り

【Ｎコード】
Ｎ１２５０ＢＡ

【作者名】
衛

【あらすじ】
能力をもった青年が幻想入りし、幻想郷の女の子たちときゃっきゃうふふできればいいなぁ

現代？さよなら（前書き）

東方幻想入りの小説となります

文才能力なしです

現代？さよなら

〝科学と機会の時代〟となった現代

何事にも科学の力が使われ、魔法や幽霊を信じてる人など極少数な
この時代

皆科学に頼り、昔の様に子供の夢は「魔法使い」などと言わず、「
科学者」と現実的な夢を語る子供が増えた

———こんな時代じゃなければ……僕の〝奇術〟も受け入れられた
のだろうか？

炎天下の中、おぼつかない足で歩く少し大きめのケースを持つ青年
が一人
細身の体で高身長、そしてまるで人を惑わすのが好きといわれる〝
狐〟のような目

さらに張り付いたように、作り物の様な笑顔、まさにうさんくささを固めた様な容姿の青年

「おやおや、これはこれは奇術師さん！今日はどこにお出かけですか？」

おぼつかない足取りで歩いてる中、３０代程の男二人が青年を小ばかにするような口調で話しかける
にやにやと、蔑む目で、汚い物を見るような目で

「……そうですね、今日は久しぶりに仕事が入りましたのでそこに向かってる途中ですよ」

すると男達は驚いたように口をひらき

「おぉ！こんな奇術師さんにも仕事があるなんて！兄ちゃん、仕事先の人にはよく感謝しろよ」

「ガッハッハ！あんたの様な落ちぶれた〝夢〟の無い奴に仕事がくるなんてな！」

余程可笑しかったのだろう男達は青年の事などおかまいなしに笑いこげる
そんな態度をされても青年は作り物の様な笑顔を絶やさずに、男達が笑うのを止めるまでまつ
うさんくさい笑顔のまま、心は悲しみを持ったまま

「いや、悪かったな兄ちゃん、仕事に行く途中邪魔しちゃってよう」

「いえ…大丈夫ですよ」

それでは、と頭を軽く下げ、仕事先に足を進める

現代、科学の進歩により見事な発展を遂げてきた今
その中では科学の発展により、廃れていく職もあり、それが青年の
奇術師、別名マジシャン
昔、まだ人が科学や機会を使いながらも、不思議な事を楽しむ事が
できた時代は、マジシャンはテレビ等の引っ張りだこだった
スプーンがいきなり曲がったり、物が移動したり、または人の瞬間
移動など、摩訶不思議な出来事をやってのけるマジシャン
もちろんそれらには仕掛けがあるが、人々を魅了するには十分だった

だが、時代が進むと人々は変わってしまった
世界がめぐるしく発展し、やがてマジシャン達はあまり目立たなく
なってしまった
マジックはある意味、〝人を騙す〟事に似ている
本来マジックは人の目を誤魔化しながら、脅かせる、あるいは感動
させるのだが、時が進むにつれてマジックの楽しみ方を間違った形
で捕らえる人が増えてくる

「あいつらは俺たちを騙しながら金を貪る悪党だ」
「なにが不思議だ！よく考えればわかることじゃないか！」
「仕掛けがわかりましたよ、こんな簡単な事でお金を稼いでたので
すね」

つまり、皆柔軟な考えができず、まるで思考がロボットに近い様に
なっていき、マジックの楽しみの捕らえ方がまったく変わってしま
った

「まぁ……もう受け入れられないのは重々承知だけど…ね」

青年は先ほどの男達に笑われた事を頭の隅におきながら、自分の幼い頃を思い浮かべた

青年がまだ少年のころ、厳格な父に育てられた少年はそのころからマジシャンに憧れていた

ただまだそのころは、マジックは本当に仕掛けも無く「魔法」だと思ってた

テレビに出ているマジシャンのマジックをまねて同じ動作をしたが、仕掛けなど用意してないので、出来る筈がない

「なにをやってる？」

いきなり声を掛けられ体がビクっと驚き、声がした方に顔を向ける

「ふう……またこんなつまらんものを見ていたのか…」

「父さん！？」

少年の父は呆れた顔をしながらテレビを消す

「こんなくだらん物を見てる暇があったら勉強しろ！将来に役立たん事などするな！」

「……はい」

何故のこ人はこんなにもすばらしい事をくだらないで済ますのだろ

う？その言葉を心にしまいながら

その夜、マジックと父の事を考えながら布団に入る
なぜ父さんはあんなにも否定するのだろう？あんなに不思議な事が
目の前でおきて楽しませてくれるのに

たとえば――――手を軽く握った後、開いたらビー球があるとか――
手を握り、手を開くだけ・・これだけで僕の手の中にビー球が……

「あった……！？」

それは今までの中での一番の奇跡、種も仕掛けも無いのに……まる
で魔法の様な出来事

――――……
――……
――……

その後、青年は父と解りあう事無く、そのまま父は生の終わりをつ
げてしまった

青年は思う
この後の仕事も、これからも馬鹿にされつづけるのだろう
あぁ……もし僕のマジックで人を驚かせ、楽しませ、感動させられる…僕にとっての理想郷があったら…

青年は目を瞑りながらあるはずもない理想郷を思い浮かべる
ただ青年は強く思う、理想郷に行きたいと

「これから僕の瞬間移動をはじめます」

出来るはずも無い、そんな場所など無いし種も仕掛けも無い
だが、昔起きたあの奇跡…あの出来きない事が出来たあの奇跡を
もう一度

「3」

僕を笑った男達

「2」

僕とマジックを理解してくれなかった父さん

「1」

この進みすぎた現代

さよなら

パチンッと指を鳴らす

目を開ければそこには

先程とはまったくちがう、まるで森の中のような場所と

棍棒をもった三つ目の化け物がいた

現代？さよなら（後書き）

文章がひどい？文才など幻想などにすぎんよ

感想などもらえるとうれしいです

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1250ba/

奇術師が幻想入り

2012年1月3日01時52分発行